

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年1月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102823
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム 武岡五丁目
所在地	鹿児島県鹿児島市武岡五丁目16番23号 (電話) 099-282-6081
自己評価作成日	平成29年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-npo.or.jp/action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jigyosyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

武岡団地の中心に位置し、近隣の病院、学校、郵便局、金融機関やスーパーマーケットなどの商店が立ち並ぶ、人通りの多い賑やかな幹線沿いに立地しています。周りには、閑静な住宅街も広がり生活の場として退屈しない毎日が過ごせます
グループホームでの生活は入居者、お一人お一人の生活リズムに合わせ、起床時間や食事の時間など配慮しています。また好みの活動も塗り画や歌がお好きな方はいっしょに歌を歌われたりと個別性を重視しています。さらに集団で行う体操やリハビリにも取り組んでおります。
毎月の行事も季節に沿ったものを行ったり、毎週の音楽セッションなど日常生活の中に楽しみを持っていただけるように努めています。
このように個別性を重視しながら、集団生活での協働性も取り入れ、自立支援に向けて、ゆっくりとした時間の中で、毎日を笑顔で過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自治会に加入し校区の文化祭や商店の夏祭りには積極的に参加している。軽音楽・ハーモニカ・弦楽器演奏等、ボランティアの訪問を受け入れ交流を深めている。
- ・母体が恩賜財団済生会であり、医療・保健・福祉の連携や研修会等、充実している。
- ・ホームは福祉相談所を開き介護相談や生活全般の相談を受けている。
- ・家族参加行事の敬老会・クリスマス忘年会・外食等、家族との絆を大切にしている。
- ・定期的な受診と職員看護師などの健康管理や訪問看護ステーションとの連携が図られ、緊急時の対応など適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・年1回、利用者・家族に「満足度調査」を実施している。取り組み委員会で内容を検討し、思いや意向を詳細に把握し、介護サービスや運営に反映している。
- ・管理者と職員は利用者一人ひとりが張り合いや喜びに繋げるように、ぬり絵や毎週の音楽療法、家族を交えてのレストランでの外食などを支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に掲示をし各自確認、共有し実践につなげている。スタッフ会議時などに確認し、理念に基づいた支援が実践できるように取組んでいる。	法人の理念を基に、開設当初に職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を掲げている。事務所・ホールに掲げ、理念を意識し共有している。会議の時に日常の介護サービスを振り返り、確認しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域文化祭の作品出品や行事などは積極的に参加し、スーパーへの買い物時など地域の方々と挨拶を交わし日常的に交流に努めている。また、散髪等も近所の床屋や美容院へ出向いている。	自治会に加入し、回覧板等で地域と情報を交換している。文化祭や商店街の祭りなど地域の行事に積極的に参加し、買い物や散歩の際には挨拶や会話を交わしている。近所の理美容院に出向いたり、事業所で福祉相談所を開設して介護相談に対応するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	街の中心部に位置するという立地環境の利点もあり地域の方の見学や、福祉相談所を開設し介護相談などを随時受け付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活動状況や利用者の状況外部評価結果を報告し家族や第三者の意見を聴いて話し合った意見を参考にしサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット・外部評価の報告などを行い、参加者から多くの助言や提案がある。提案により、居室に滑り止めマットを設置するなど危険防止に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村窓口担当、地域包括支援センターの職員と情報交換を行いながら助言を頂いている。介護相談員の派遣受け入れにて利用者さんの生活の質の向上に繋げるようにしている。</p>	<p>市担当者に、窓口に出向いたり、電話で事業所の実情や取り組みを伝え連携を深めている。毎年介護相談員を受け入れている。運営推進会議を通して協力関係もできている。市福祉課の担当者とも密に連絡し合っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月のスタッフ会議にて研修会の場を設けている中で、年に1回は身体拘束について研修を行い、全職員の理解を深めている。玄関の施錠については、交通量が多い場所の為、安全面を考えて周辺症状が著しい場合には、やむを得ず玄関を一時的に施錠している。</p>	<p>マニュアルを基に身体拘束廃止委員会があり、年に1回研修会を開催し、言葉による拘束も含め禁止の対象となる具体的な事例を出して、理解を深めている。玄関の施錠はホームが幹線道路沿いに面している為、一時的に施錠することもあるが、外に出たい利用者には、散歩に同行して寄り添い、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、高齢者虐待防止法など研修は積極的に参加し、具体的な行為等職員会議にて全職員への周知を図って、ケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内で研修などに参加し、資料を基にスタッフ会議など共通理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用案内説明書や重要事項説明書により家族へ説明を行い同意を得ている。又不安や疑問について十分な説明を行い理解、納得を図っている。退所後についても相談、援助を行う旨説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員の受け入れを行っており利用者の意見を聞き運営の参考にしている。年1回、満足度調査を行っており、利用者や家族からの意見や要望を伺う機会を設け、頂いた意見を運営に反映させている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、市相談員の助言も参考にしている。家族には年1回の満足度調査や面会・電話等が意見を聞く良い機会としている。毎月「ふれあい通信」と共に現状報告をしている。出された要望で、居室での失禁対策にフローリングシートを敷く等で対応し、安全な生活に活している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りやスタッフ会議など意見や要望を聞き、改善策などを考え、運営会議などで反映できるようにしている。</p>	<p>管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとっており、意見や提案が言いやすい環境を整えている。管理者は申し送りやスタッフ会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者にも報告し、反映を図るよう心がけている。出された提案で安全な薬の管理に徹する等、意見を反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員個々の状況を把握に努めて、労働時間等働きやすい職場環境を考慮している。資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を尊重し活かしてもらっている。「法人内でのアンケート調査あり」</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内にて毎月研修の機会があり殆んど職員が研修に参加できる環境があり研修受講者は研修内容について、スタッフ会議等で報告勉強し専門的知識を養っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム熊毛支部連絡協議会の研修や、同法人グループホームとのケア現場研修にて交流を図り質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面談で生活状況を十分把握するように努め、心身の状態や本人の思いに向き合い、不安がないように努力し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、十分話し合い安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時困っていること、不安なことに対して、できることはすぐに対応するが、困難なことは必要に応じて他のサービス機関につなげられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互い一緒に生活している。人生の先輩である方から学ぶこともありホームでの生活の場を共に支えあう関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡は密に取り、家族参加の行事などを企画し参加していただいている。家族と一緒に本人を支える関係作りを築くように、ご家族にも役割を持っていただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や面会(知人、親戚など)は、いつでも機会を持って頂くように常にお願している。面会がない時はこちらからの連絡を取らせてもらうこともある。	親戚・家族の面会が多く馴染みの知人の訪問もある。正月や盆に帰宅する利用者もいる。美容室に2ヶ月毎に出かけたり、自宅に食事に帰ったり、墓参りに家族と行ったりしている。行事毎に家族や友人・知人を案内し、手紙・電話の取次ぎなども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に互いの居室を訪問したり談話できる環境作り。コミュニケーションが苦手な方は、職員が介して交わるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も訪問したり必要があれば側面からの相談支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。会話や行動表情などから思いに気づき、本人の気持に考慮して困難な場合ご家族の力を得ながらケアの方向性を検討している。	入浴時や夜勤時など日々の関わりの中でコミュニケーションを図り、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、介護相談員の助言や利用者の思いを家族とも相談し、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員、家族や知人などから情報を得て本人との話の中で情報を得て、本人全体の把握に努めケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の生活リズムを理解するとともに情報を共有するよう努めている。本人の出来る力、解る力の発見していくことにも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向が実生活で満足できているか家族訪問時には、現状報告を行なっている。ニーズの変化等関係者の意見を職員会議にて話し合い、取り入れて介護計画に反映させている。	本人や家族と現状報告を行って意向を確認している。主治医の意見も踏まえた職員会議で、個々に応じた介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを用意し、食事・排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全スタッフが確認できている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応しそれぞれ満足できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らせるように警察、消防等協力支援体制を取っている。地域の行事（祭り、校区文化祭）など参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族が希望するかかりつけ医になっている。専門医受診時も紹介状や連携を取りながら、適切な医療を受けている。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的な往診は月2回。他科受診は家族の協力を得て受診を支援している。職員看護師の健康管理や週1回の訪問看護ステーションとの連携も図り、適切な健康管理や緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果は家族と共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を一名雇用し、日々相談を行いながら支援をしている。また訪問看護ステーションと契約をし、週1回の健康管理、異常時や必要な時は随時相談できる体制を整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には入院目的を短期間に達成しスムーズに退院ができるように退院計画を病院関係者と、本人家族と話し合い必要な支援を行なっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の終末期のあり方について説明している。入院加療後重度化したケースでは、ホームでの介護が可能か又今後の対応について、主治医、家族、職員が話し合い方針を決めて対応している。看取りにも取り組む。</p>	<p>契約時に、本人・家族に、「重度化した場合における対応に係る指針」の文書を示し説明して同意をもらっている。状況の変化に伴い、主治医・家族・職員で話し合い事業所でできることを説明して、今後の対応について、家族の希望や方針を共有して対応している。特別養護老人ホームの選択肢もある。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員で勉強会を行ない、急変や事故発生時に応じた応急手当や初期対応が出来るように備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署と連携を図り事業所内の訓練は行っている。地域住民の参加協力を得た避難訓練は出来ていないが働きかけは行っている。</p>	<p>消防署立ち合いのもと、年2回夜間想定で避難訓練を実施している。定期的な防災設備の点検は業者が行っている。居室が2階に多いので避難用のベランダを増設している。自主訓練も年2回行い避難誘導・避難経路の確認を行っている。地震等で大きな家具が倒れないように、耐震用器具を固定している。地域の協力もお願いしている。水・食料を3日分備蓄、カセットコンロ等、用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭に置き一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように言葉掛けを会議や日々の関わりの中で職員同士が、注意し徹底を図るようにしている。本人のプライバシーに、関することは個人情報保護法の理解をし秘密保持を図っている。	マニュアルを作成し、勉強会を実施している。年1回の法人の研修会にも参加し伝達講習を行っている。トイレ誘導の声かけ等、馴れ合いにならないように、誇りやプライバシーの確保を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表れやすいような日々のケア、関係づくりに努め誇りやプライバシーをそこねないような言葉掛けを実践している。意思表示の困難な方には自己決定が出来るような声かけ、働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、その日の状態や希望を出来るだけ取り入れている。利用者個々に応じた生活を見守りながら過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問理美容を利用して、それぞれ個性に合わせたヘアスタイルにしてもらっている。同美容院へも散髪に出向いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の下膳やテーブル拭き、時折食器洗いをしていただいている。	法人の栄養士の助言を得ながら、嗜好に配慮し、旬の食材で、ミキサー食や刻み食等、食事形態にも気配りしている。誕生日にはケーキでのお祝い、季節の行事食、弁当持参での花見、家族参加の外出など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。口腔ケアも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容を記録し、又個別の摂取量や好き嫌いを把握している。管理栄養士の専門的アドバイスももらっている。水分摂取量を把握しており、少ない利用者にはお茶以外に好みの飲み物で摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、能力に応じて職員が見守り、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行い、週1回消毒を行っている。必要時に訪問歯科の検診、指導をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易に紙パンツ等使用せず、排泄意識を持てるようにトイレでの排泄を支援している。夜間熟睡度により尿取りパットやポータブルトイレを使用する場合があります。	排泄チェック表を作成し排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。自らトイレへ行ったり夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。リハビリパンツから布パンツに改善された事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	味噌汁の野菜具沢山にしたり、牛乳やヤクルトなどの働きかけることで自然排便ができるように取り組んでいる。必要な方には、医療機関の支持のもと緩下剤調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日、時間は一応決めているが体調、要望、希望に合わせた入浴ができている。入浴を拒む方に対しては言葉掛けや対応の工夫、その方に合わせた入浴支援を行っている。	入浴は週3回、午前中を目安にしているが希望に合わせて柔軟に対応している。更衣室の室温やすべり止め、スロープ等を設置して、転倒防止に配慮している。入浴を拒む利用者には話をしたり、タイミングを見て声かけする等、工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態や希望で不安なく眠れる空間を整えている。いつでも好きな時間に休息してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明をケース記録にファイルしいつでも見られるようにしている。疾病の症状や薬の一覧表等確認できるようにしている。内容変更時には引継ぎノートに記録し各自確認をしスタッフ間で確実に共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。それぞれの経験や知恵を発揮できる場面を作り楽しみや自信につなげる様支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	天気、本人の体調、希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように毎日の散歩、買い物をしている。外食、お弁当を持って戸外に出かけている。	日常的には体調などを考慮して周辺の散歩や買い物に出かけている。希望で個別に買い物や理・美容院利用の支援をしている。計画を立て、初詣や花見・家族を交えてのレストランでの外食・弁当持参で戸外に出かけている。家族の協力で外泊や外出・外食・理美容院利用・墓参などの際にも支援している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	特に、お金を使うことはない。必要な時は一緒に出掛けお金を使うときは立替払いを行っている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	利用者の希望に応じて適宜日常的に電話は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望や生活歴を考慮しながら本人の思い出の品物、写真や季節の手作り作品、季節の花を飾ったりしている。</p>	<p>共用空間は換気や採光に配慮し清潔である。玄関を通して人の往来も楽しめ、フロアには利用者と職員で作成した季節感を大事にした飾りつけや花も飾っている。ゆったりしたソファやリクライニングチェアが配置している。懐かしい音楽を楽しみながら居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>殆んど1階のホールに居ることが多く入居者の方、スタッフと会話をする事が多い。ゆっくりしたい方はいつでも部屋に行っている。様子を見ながら声を掛けている。その時々に出会ったテーブル配置、席移動などで場所の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が自宅で使用していた家具なじみの物を持ってきていただき、家族の写真や装飾等居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>居室はエアコンやベッド・押し入れ・時計・洗面台が備え付けである。布団はリースである。タンスや椅子・位牌・写真など使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。家族や訪問者にお茶を出せるようにテーブルもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの理解力に応じてトイレ表示、居室に絵付き写真に名前を表示して、混乱なく生活を送れるように支援している。個々の身体能力が活かせる居室配置を適正に行い、安全に自立できる生活環境を考慮している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない